

積極的に社会参加する生徒の育成を目指して

—体験を交えた主権者教育と地域との協働を通して—

宮城県立支援学校岩沼高等学園川崎キャンパス

教諭 都澤 真理

1 はじめに

(1) 生徒の実態

本校は、川崎町に開校7年目を迎える支援学校高等部の分教室である。発達障害も含め軽度の知的障害を有する生徒が19名在籍している。全員、電車やバスを使って自力で通学している。小学校低学年から6年生程度の読み書きや計算の学習能力がある。

(2) 問題意識

若者の自己決定権を尊重し積極的な社会参加を促すことを意図して2022年4月に成年年齢が18歳に引き下げられた。2016年6月には選挙権年齢が引き下げられている。さらに、様々な社会的事象を自分ごととして捉え行動することが求められている。その対象は本校の生徒も例外ではない。

社会科では、地域に学ぶことを柱として生徒が主体的・対話的な学びを深めることを目指してきた。生徒は、落ち着いて学習に取り組み自分の意見を臆せず発表し級友の意見に耳を傾けて学びを深めることができるようになってきた。

しかし、政治の学習には「関心がない」「自分が投票しても何も変わらないだろう」等の理由で消極的である。また、消費生活の学習についても「難しそう」「面倒だ」等の理由で同様に消極的になる。

そこで、3年間の学習の中で主権者として必要な基礎的な知識・技能・態度を身に付けさせ、在学中そして卒業後、積極的に社会参加する生徒の育成を目指すことを新たな目標に設定した。

そのための手立てとして、知的障害の特性を踏まえ、体験を交えた主権者教育と地域との協働を積み重ねて行くことが有効ではないかと考えた。様々な体験的な学習を通して、地域の方々の真摯に努力する姿に触れて社会参加のロールモデルを知ることで、「地域のために頑張っている人がいる」「見習いたい」等の気持ちが芽生えるのではないかと考えた。さらに、学習の中で実際に体験することを通して、「自分でできた」「役に立てた」など達成感や自己有用感を味わえるであろう。これらが将

来にわたり主権者として積極的に社会参加する土台になっていくと考えた。

2 研究の目標と仮説

(1) 研究の目標

体験を交えた主権者教育及び地域と協働する学習を通して、積極的に社会参加する生徒の育成を目指す。

(2) 研究仮説

体験を交えた主権者教育及び地域と協働する学習を積み重ねれば、生徒は地域に地域の方々を社会参加の良いロールモデルとし、地域に親しみを持てるであろう。学習の中で実際に体験し達成感や自己有用感を味わうことが将来にわたって積極的に社会参加する意欲にもつながるであろう。

3 実践方法と検証方法

(1) 実践方法

① 主権者教育

- ・ 3年間を通して模擬選挙を体験する。町から記載台などを借用し実際の投票に近い体験ができるようにする。
- ・ 3年間を通して、社会科・情報科・家庭科など複数の教科で消費生活及び情報モラルについて学習する。
- ・ 3年生では消費生活センター等の消費者講座を受講する。地域の専門家である講師から学ぶことで学習内容をより深く印象付ける。

② 地域との協働

- ・ 町の生涯学習課及び文化財保護委員と連携して町の史跡を歩いて学ぶ。講話を聞くと共に環境整備を行う。学校のみで巡検する際は町内在住の生徒をミニ先生として学び合いを促す。
- ・ 仙台市博物館等の貸出資料を活用する。実物資料や映像資料に触れることで理解を深めさせる。地域教材を開発し、地域にゆかりのある物や先人の生き方に触れることで地域に親しみを持てるよう

にする。

- ・ JICA 東北から世界の環境問題等に関する学習資料を提供してもらいレポートを作成させる。自分でテーマを選び調べ発表することを通して世界の課題を自分ごととして捉える一助とする。

(2) 検証方法

① 日常の授業での教師による見取り

授業の積み重ねを通して見られる生徒の言動の変容を見取る。

② ノート・ワークシートによる見取り

授業のノートやまとめ学習のワークシート、自己評価カードに分かったことや疑問等を記入させ、変容を見取る。

4 指導の実際

(1) 主権者教育

① 模擬選挙

生徒が政治に興味・関心を持つための学習として、模擬選挙が有効であると考え、3年間を通して社会科の授業で体験することにした。3年間、変化のある繰り返しの学習の中で発達段階に応じて理解を深める。いずれの時間も政治的公正性、中立性の確保には細心の注意を払った上で実施した。

(表1 模擬選挙の学習計画)

時間	おもな学習内容
1時間目	選挙の歴史について知る
2時間目	投票の方法を知る
3時間目	模擬選挙公報を読む どの候補者に投票するかを考える
4時間目	模擬投票と開票 学習の振り返り
5時間目 (3年生のみ)	実際に投票した生徒の感想を聞く

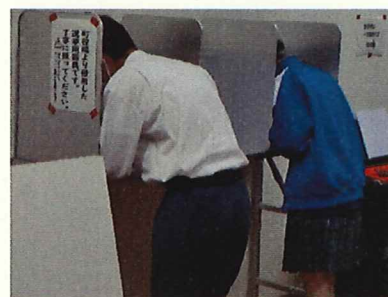
1時間目の「選挙の歴史」では「先人達の努力があって普通選挙があることを知り、参政権を行使しようと思える」ことをねらいにした。宮城県にゆかりのある吉野作造と鈴木義男の活動を取り上げ、民主主義を少しでも身近に感じられるように工夫した。

2時間目の「投票方法」では、投票所や投票用紙等の例の写真を見せて、生徒がイメージをふくらませることができるようにした。

3時間目の「模擬選挙公報」は、学校オリジナルの模擬選挙公報を作成した。同僚に協力を依頼し学校生活に関する公約を考えもらった。どの候補者に投票するかを考える際には、公職選挙法に触れる言動についても知らせた。飲食物の提供が法律違反になることなどについては知



っている生徒が多かった。政治に全く関心がないわけではないことがうかがえた。4時間目の「模擬投票」は、町から記載台と投票箱を借用して実施した。生徒会役員選挙でも同様に借用している。社会科では、投票用紙や順路、掲示物等も実際の投票所にできる限り近付けた。生徒は緊張感を持って投票に臨んでいた。開票では、生徒は自分の選んだ候補者が当選すると大喜びし、公約が実行されることを楽しみにしていた。



(図2 記載台での記入)

「学習の振り返り」では、生徒から「思っていたより簡単に投票ができた」「投票のやり方を学んだので自分も投票できると分かった」などの感想があげられた。

3年生は、在学中に18歳を迎え実際に投票所入場券が送られてくる生徒がいる。そのため、安心して投票に行けるよう、学習を実際の選挙の前に行うようにした。選挙後には、実際に投票した生徒に、「難しかったこと」「簡単だったこと」「終わった後どんな気持ちだったか」などを発表させた。「とても緊張したけど記入できた」「投票箱を間違えそうになり係の方が教えてくれた」等リアルな声を聞くことができ、生徒達にとって大きな学びになった。

② 消費生活及び情報モラルの学習

本校では、社会科、情報科、家庭科の授業を中心に消費生活及び情報モラルについて3年間を通して学習している。ロールプレイングや家計シミュレーションなどの手立てでより理解しやすいように努めている。さらに3年生では、総合的な学習の時間に消費生活センターや県弁護士会の協力を得て、消費生活についての

講話を聞く機会や郵便局で金融について学ぶ体験会を設定している。様々な教科で異なる切り口から学ぶことや地域の専門家から講話を聞く体験を通して学習内容がより強く印象付けられていた。生徒は「スマホの使い方に気を付けようと思った」「リボルビング払いに注意することを教わって良かった」「契約するときには家族に相談しようと思う」「将来一人暮らしをするのに心配だからお金のことをもっと教えてほしい」など自分のこととして捉えていた。



(図3 弁護士による消費生活講座)

(2) 地域との協働

① 地域巡検

地域の学習を深めたいと町生涯学習課に相談したところ、町文化財保護委員会委員長による授業を提案していただいた。中世の山城遺構「本城跡」に行き現



(図4 本城跡での講話)

地を歩きながら町と山城の歴史を教わる授業は、コロナ禍での中断を含めて開校以来7年目の取組となる。2年目からは講話を聞くだけでなく、城跡保全のために刈った枝葉を拾い集めるなどの作業を続け、町の方々から感謝の言葉をいただいている。生徒達は環境整備をした達成感で気持ちの



(図5 環境整備)

受け皿が広がり、学習内容により理解できた様子だった。さらに、この学習を通して、生徒は史跡保存のための町の方々の努力の一端を知り、「町の人はずい」「こうして整備してくれているから400年も前の城址が残っているんだと思った」などの言葉を学習後のお礼の手紙に書いていた。

町内在住生徒を「ミニ先生」に任命し、学級での地域巡検の際に知っていることを級友に教える活動も続けている。生徒同士で説明を聞いたり質問をしたりす

ることで、知識の定着もしやすい。

② 実物資料の活用

実物資料には、生徒の五感に訴える強い力があると考えられる。古代史では銅鐸などの復元品、中世では町にゆかりの深い慶長遣欧使節に関する資料、近現代では仙台空襲に関する写真資料など単元の学習内容に応じて、仙台市博物館を中心に借用している。空襲に関する写真資料を見ている中で祖父母から聞いた戦争体験を思い出し、発表する生徒もいた。

地域教材は、伊達政宗、支倉常長、川村孫兵衛重吉、玉蟲佐太夫、鈴木義男などの人物を中心に開発した。地域にゆかりのある人物について授業で学び興味を持ち、家族と博物館や資料館に足を運んだ生徒もいた。実物資料や映像資料に実際に触れることを通して、地域の地理や歴史に親しみをもち、理解を深めている。

3年生の冬には、JICA 東北から世界の環境問題に関する学習資料を提供してもらい、レポートを作成している。自分でテーマを選び調べて発表することを通して、世界の課題をジブンゴトとしてとらえる一助となっている。作成したレポートには、「自分の住んでいる地域についてももっと知りたい」「ボランティアをしてみたい」「節水など自分のできることから始めようと思う」などそれぞれの思いが表現されていた。



(図6 JICA 地球ひろばの資料)

5 研究の振り返り

(1) 主権者教育 成果 (○) と課題 (△)

○ 模擬選挙について

投票用紙や順路、掲示物等も実際の投票所のできる限り近付けた。生徒は緊張感を持って投票に臨んでいた。3年間繰り返すことで生徒は活動に慣れることができた。在学中に18歳を迎えた生徒の投票率は現在100%である。投票に行った生徒は、「学校でしたのと同じだったから大丈夫だった」などの感想を述べていた。

○ 消費者生活及び情報モラルの学習について

複数の教科で異なる切り口から学ぶことや地域の専門家から講話を聞く体験を通して学習内容が

より強く印象付けられていた。学習が功を奏してか、校内での SNS のトラブルが激減している。

△ 実際の選挙公報や政見放送の内容を理解することは難しい。ホームページも含めて、判断する視点などをさらに分かりやすく指導することが必要である。

(2) 地域との協働 成果 (○) と課題 (△)

○ 地域巡検について

町内の史跡を歩きながら学ぶことで、地域の方々ボランティアで環境整備を行っていることも知り、生徒の中から「町の方の役に立ちたい」という声が出て、環境整備への参加が実現した。社会参加の一步となった。生徒にとっても町の方々にとっても無理のない形での活動なので持続が可能である。

△ 「ミニ先生」について

事前に学習内容の確認を丁寧に行っていないと教師の意図とずれていたり「ミニ先生」の伝えたいことが級友になかなか伝わらなかったりした。

○ 実物資料の活用について

実物資料や映像資料の活用により生徒は学習課題に興味・関心を持つことができた。自分でまた家族と一緒に「さらに知りたい」と意欲をもって博物館や資料館に足を運んだ生徒もいた。

△ 地理的分野の地域教材の開発もさらに進めたい。

6 検証方法から

(1) 日常の授業での教師による見取り

入学時は「社会は漢字が多いから苦手」「国旗にしか興味がない」など興味の偏りがあったり、自分の意見を発表することを苦手としていたりする生徒がほとんどである。3年間学習を積み重ねる中で、級友の意見に耳を傾けることから始まり次第に自分の考えを発表できるようになった。また、体験的な学習を通して興味の幅も広がっていく生徒が多かった。発達段階に応じて理解を深めることができた。

(2) ノート・ワークシートによる見取り

3年間での変容を見取ることができた。特に、模擬選挙に関して、1・2年生では「うまくできてよかった」「自分の考えに近い公約の人を選ぶことが分かった」

などの授業に関する記述が中心だった。3年生になると「投票をすることで、何かが変わるきっかけになると思った」「選挙でいろんな人達の生活が変化するんだなと思った。来年で18歳になるので選挙に積極的に行ってみようと思った」「私は投票に行くのが面倒くさいと感じていて、行かなくてもいいと思っていた。でも一人一人の投票がとても大切だと分かったので少しだけ関心を持たれた」など自分の意識や行動を変えようとする記述に変わってきた。学習の積み重ねと共に、実際に成年年齢を迎える生徒の意欲の表れだと思う。生徒の成長が楽しみである。

7 終わりに

6年間にわたって様々な手立てで学習の積み重ねを行ってきた。今年度は、町から「史跡に立てる案内板を製作してくれないか」と依頼があった。生徒一人一人の書いた文字が町の方々や観光客の目に留まる、生徒にも町にも嬉しい取組となる。また、現在のところ卒業生に離職者がいないことも本校の自慢の1つである。どの教科でも社会的自立・職業的自立を目指して取り組んでいる成果の一つであると思う。

今後は、さらに同僚と協力して教科横断的な取組の充実や地域との協働学習の発展を進め、生徒が積極的に社会参加する後押しをしていきたい。

参考文献

- ・ 「令和4年度新しい有権者のための選挙講座」
(宮城県選挙管理委員会、宮城県明るい選挙推進委員会)
- ・ 「成年(オトナ)になったらできること」
(東京法規出版)
- ・ 「川崎町史」 (昭和47年川崎町史編纂委員会)
- ・ 「かわさき歴史文化講座」
(平成30年川崎町教育委員会)
- ・ 「史料仙台領内古城・館 第四巻」
(紫桃正隆著 昭和49年宝文堂)
- ・ 「みやぎの先人集 未来への架け橋」
(宮城県教育委員会)
- ・ 「仙台市史特別編8 慶長遣欧使節」
(仙台市博物館)